

<シェリル・メイナー大佐の2021年2月14日のビデオメッセージ（要約）>

ある時、友人とバーベキューをしたのですが、なかなか火がつかず、着火剤の量を増やしました。火がついたので、網の上に食材を並べ、すべて上手く行っていると思っていたのですが、突然、炎が爆発的に燃え上がり、食材が飛び散りました。炎がおさまるまで近づくこともできず、火が消えたとき、仕方なくピザをオーダーしました。神様はモーセに、どのように祭壇を築くかを指示しています。祭壇は、人々が神に近づき、神を礼拝し、神との交わりを持つことが出来る場所です。レビ記1章を見ると「焼き尽くす献げもの」について指示されています。この箇所では、すべてを焼き尽くすように、という指示が3回出てきます。他の献げ物の場合は、一部を祭司が自分のために受け取ったり、人々と分かち合ったりすることができました。しかし、「焼き尽くす献げ物」の場合は、残らずすべてを神に献げる、という特徴がありました。わが家のバーベキューでは、食材は焼け焦げてしまいましたが、神の祭壇では、神の炎によって焼き尽くされることによって、献げ物は聖なるものに変えられます。この「焼き尽くす献げ物」は、イエス・キリストの十字架において完全に実現しました。イエスは、ご自分のすべてを余すところなく神に献げ尽くされました。このイエスを通して、私たちは神に近づき、神との交わりを持つことができます。新約聖書を見ると、パウロは、私たちの身体を神への献げ物とするように勧めています。「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けにえとして献げなさい」とローマ12:1にある通りです。「聖なる生けにえ」とは、人生の中で神の御心を追い求めて行く、という意味です。それは、何か選択するとき、神の基準に照らして物事を決めて行くような生き方です。そうすることによって、生活のあらゆる面が神に明け渡され、神の栄光が現わされて行くのです。その結果、私たちはいよいよイエスに似た姿へと変えられます。しかし、「聖なる生けにえ」として自分を祭壇の上に置き続けることは大変なことです。D.L.ムーディーは「自らの意思で祭壇から降りてしまえることが問題だ」と指摘しました。私たちが祭壇の上にとどまり続ける時、神は私たちに顧みてくださり、私たちの内にある怒りや失望、苦々しい思いを取り除き、失敗や過ちを赦し、神を中心とする生き方へと私たちを連れ戻してくださいます。こうして、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制という聖霊の豊かな実が結ばれるのです。ヨハネ10:10でイエス様は「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」と約束してくださいました。どうか、あなたが日々の歩みを神に明け渡し、神の臨在で満たされる経験をされますように願います。そして、あなたの生活が神の祭壇の上で、香り高い宥めの献げ物となることができますように。